

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「iPhoneで脱水症状予防 水分摂取量を計測できるウォーターボトル」
- 2) 「中国のトンデモ食材 今度は“プラスチック米”」
- 3) 「日本初BIO HOTEL認定、長野“八寿恵荘”」
- 4) 「鳥取県“勝手にスナバキャンペーン”、5月23日-6月30日開催」

---

1) 「iPhoneで脱水症状予防 水分摂取量を計測できるウォーターボトル」

これから夏本番になると、心配なのが脱水症状。気づかないうちに症状が深刻化することも多く、ここ日本でも毎年多数が病院に搬送されている。そんな脱水症状を予防してくれる、賢いウォーターボトルが開発された。

「HidrateMe Smart Water Bottle」は、iPhone、Androidのスマートフォンと連携し、毎日の水分摂取量を計測してくれるウォーターボトル。ボトルの内部には水分量を自動計測するセンサーがついており、どれくらい水を飲んだのかが一目瞭然。

また、無料アプリに性別や身長、体重、運動量などを登録すれば、あなたが毎日どのくらい水を飲むべきか、目標値を設定してくれる。目標値は気温や湿度によっても変わり、急な環境変化にも対応できる仕組み。

さらに忙しくしていると、つい水を飲み忘れてしまうことがあるが、そんなときはアプリから通知がくる。毎日の達成率もアプリで確認することができるので、適量の水を飲む習慣が自然と身につくそう。

「HidrateMe Smart Water Bottle」は容量710mlで、カラーは、アイスバーグホワイト、バンブーグリーン、クリスタルピンクなど全5色。シンプルなデザインで、オフィスや休日の外出時など、毎日愛用できそう。

現在クラウドファンディングの「Kickstarter」にて7月14日まで出資受け付け中で、早くも目標額をクリアしている。今なら39ドル（約4800円）で製品1つを贈呈してもらえるプランが一番リーズナブル。

発送は2015年12月を予定しており、残念ながら今年の夏には間に合わないが、年々厳しくなる暑さに備え、今から出資してみてもどうだろうか。

デザインもシンプルで使いやすく、iPhoneやスマホの連携で自分の摂取すべき水分量を理解できるとは素晴らしいと思った。

自分の体のことを把握できていない時もあるので、これからの時代は体調管理をスマホでする時代が当たり前になってくるんだと感じた。

今年の夏には間に合わないのが残念だが日本でぜひ発売して来年の夏には店頭で並んでいるのを見るのが待ち遠しい。

---

## 2) 「中国のトンデモ食材 今度は“プラスチック米”」

冷凍毒ギョーザに毒入り粉ミルク、工場廃油で作った食用油脂や毒ペットフードなど、挙げればキリがないほど出てくる恐ろしい中国の食品事情だが、今度はなんと！“プラスチック米”だ。

プラスチック米とはジャガイモやサツマイモの粉末に合成樹脂を混ぜて作った、一見、普通のコメにみえる悪質極まりないシロモノ。その生産物が国内にとどまらず、アジア諸国に流通していることが発覚し、大騒ぎになっている。

実はこのプラスチック米、すでに数年前から存在が指摘されてきたが、今回、インドネシアで大量に出回っていることが判明し、同国政府が調査を開始したことで社会問題となっている。近隣国のシンガポールやマレーシアでも、中国から輸入されたと思われる同様の合成樹脂入りコメが流通しており、被害はほかのアジア諸国に拡大することも指摘されている。報道によると、プラスチック米は中国国内の闇工場で作られ、香りを出すために香料まで入れられ、より本物に近づけているという。

では、こんな無機物を食べて大丈夫なのか？

中国の中華料理店協会によると「プラスチック米を茶碗3杯食べると、ポリ袋1枚食べることに匹敵する」という。消化できないようなプラスチックを恒常的に食べ続けると、腸閉塞など胃腸の病気を引き起こすことは容易に想像ができる。

それにしても、中国人には「食の安全」などという概念そのものがないのかも知れない。

日本で「食の安全」を考えることはもはや当然と言えるので、近隣国でこのような偽装食材が出回っていることが信じられない。食に対する考え方の違いはあるにしても、日本人には耐え難い問題である。被害報告が出てからの行動では遅すぎると改めて感じた。中国からの直接輸入がないとしても、何らかの経由でプラスチック米が口に入ってしまうことのないようにと願うばかりだ。

---

## 3) 「日本初BIO HOTEL 認定、長野“八寿恵荘”」

カモミールにこだわったスキンケアブランド「華密恋」が手がける長野県にある宿、「八寿恵荘」が5月にリニューアルオープン。「八寿恵荘」は、日本で初めて“BIO HOTEL”に認証されたホテルだ。

“BIO HOTEL”とは、ドイツ・オーストリアにあるBioホテル協会の「Bioホテル基準」による認定を受けた、滞在するゲストの健康や自然環境に配慮したホテルのこと。食事や飲みものはすべて有機農法、石鹸やタオル、ベッドリネン類などは可能な限りに自然素材を使用。これまで認定を受けたホテルはヨーロッパを中心に約90軒。日本ではBioホテル協会の公認を受けて13年に発足した、BIO HOTELS JAPANがヨーロッパのオーガニック規格をベースに、日本とアジアにおけるBIO HOTELの認証と、格付けを行っている。

「八寿恵荘」では、地域に根ざすビジネスを展開するため、建物の外壁や内装、家具などに池田町産のアカマツや長野県産のスギを始めとした地元の自然素材を使用。また、風呂や床暖房などには地元である池田町の不要木材を利用した、二酸化炭素の排出量を増やさない木質チップボイラーが導入された。

その他、寝具やタオルなどには、全てオーガニックコットンを採用。食事や飲みものには、自社農園や近隣地域で栽培された有機野菜を用いるなど、すみずみまで自然への配慮と地域との関連性、サステナビリティにこだわっている。また、食堂は年配の人の使用を考え、畳の部屋からテーブル席にリフォーム。共用のミニキッチンも併設され、セルフで料理を楽しめる他、料理教室などのワークショップも開催出来るスペースとなった。

他にも、乳がん治療を受けている女性に向けた癒しツアーや、アトピーで悩む子供に向けた宿泊イベントを開催するなど、人にも社会にも環境にも優しい宿となっている。

宿泊先を選ぶ時、施設のキレイさや料理の質、様々なオプションなどを基準に選んでいるが、日頃から食べるものや肌に触れるものに対して意識が高く厳しい目を持っている人はもっと別の基準で宿選びにもこだわるだろう。そのような人たちには朗報ではないか。今後このような宿が増え、一部の限られた人だけではなく多くの人に広まれば、サステナブルな生活が根付いていくと思う。

---

#### 4) 「鳥取県“勝手にスナバキャンペーン”、5月23日-6月30日開催」

鳥取県は5月23日-6月30日、「勝手にスナバキャンペーン」を開催する。県の観光や特産物の知名度向上のため、県をあげたプロジェクトで、官民により県内各所で「日本一のスナバ」を盛り上げる。21日、鳥取砂丘で「鳥取にはスタバは無いですけれども、日本一のスナバがあります」というコメントを昨年発言し有名となった平井伸治鳥取県知事がキャンペーン開催宣言を行った。

期間中、県内の4つの「スナバ」（鳥取砂丘・浦富海岸・北条砂丘・弓ヶ浜）をテーマにした特典付きの観光パスポートであるとっとり春旅パスポート「トリパス」を、「鳥取砂丘情報館 サンドパルとっとり」で、提示すると豪華賞品が当たる「スナバくじ」を実施。5月22日-25日、東京・新橋の「とっとり・おかやま新橋館」1階ゲート前で、鳥取県発祥のコーヒー店「ラバールコーヒー」のバリスタによる、鳥取ならではのコーヒーを無料サービスする。また、鳥取市の「バード・ハット」で、コーヒーと喫茶店文化の振興・普及を図り、鳥取県の活性化を促すため、地元で根付きコーヒーを愛する鳥取市の喫茶店やカフェなどが設立した「鳥取珈琲文化振興会」の設立を記念したイベントも実施する。

うどん県やおんせん県、VS東京など、都道府県ごとにユニークなアピールを行っている。先月ついに待望のスタバ1号店がオープンした鳥取は、これまでスタバがなかったことを逆手に取り「スタバとスナバ」という耳に残るキャッチフレーズでアピールをしてきたが、何かと話題になった中でこのイベントがどれほどの話題を呼ぶか注目をしたい。